

熊本大学大学院法曹養成研究科  
平成27年度第3期募集 法律科目試験問題

# 刑 法

平成27年1月25日（日） 14:00～14:45

## 解答上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題の中を見てはいけません。
2. 問題用紙は1枚、解答用紙は2枚、下書き用紙は1枚です。
3. 解答用紙には、熊本大学大学院法曹養成研究科の受験番号のみを記入し、氏名は記入しないで下さい。
4. 解答は横書きにして、2枚の解答用紙（裏面も使用）に収めて下さい。  
解答用紙の追加・交換はしません。
5. 解答にはボールペンまたは鉛筆を使用して下さい。
6. 問題の内容に関する質問には応じません。
7. 貸与した六法に書き込みをしてはいけません。
8. 試験終了後、問題用紙および下書き用紙は持ち帰って下さい。

【問題】以下の事例に基づき、具体的な事実を摘示しつつ、Xの罪責について論じなさい（特別法違反については論じなくてよい。）。（配点：60点）

Xは、スキューバダイビング指導者として、受講者Aと午後9時から夜間潜水を開始したが、Aに珍しい魚を見せようと、Aに具体的指示もせず、後方も確認しないまま、その場を離れたところ、海流も手伝い、Aを見失った。Xを見失ったAは、圧縮空気タンクの空気残量が少ないことを認め、海面移動のため海面に出た。

しかし、当時海面は気象注意報が出るほどに風雨が強く、Aは海面移動が困難と判断し、再び水中を移動した。ところが、夜間潜水は、視界が悪く、不安感や恐怖感が助長され、指導者の適切な指示・誘導がなければ空気喪失時に適切な措置を取ることができない恐れがあった。

Aは潜水経験そのものが乏しく、その技術も未熟で、夜間潜水も初めてであった。そのため、Aは、パニック状態となり、空気タンクの空気残量を確認できず、ついには空気喪失時に適切な措置を取ることができず、翌日午前0時に溺死した。

以上